

日10-1

「釣りバカ日誌 ファイナル」

☆☆☆☆

2010（平成22）年1月1日鑑賞<梅田ピカデリー>

監督：朝原雄三

脚本：山田洋次、朝原雄三

浜崎伝助（ハマちゃん、万年ヒラ社員）／西田敏行

鈴木一之助（スーさん、鈴木建設会長）／三國連太郎

浜崎みち子（ハマちゃんの愛妻）／浅田美代子

沢村葉子（料亭の美人女将）／松坂慶子

沢村裕美（葉子の娘、獣医）／吹石一恵

俊介（裕美の恋人）／塚本高史

堀田社長／鶴田忍

秋山専務／加藤武

原口取締役／小野武彦

舟木課長／益岡徹

原常務（イマムラ・トレーディングス常務）／岸部一徳

鈴木紀子（スーさんの長女）／高畑淳子

鈴木恵（スーさんの次女）／かとうかずこ

前原運転手／笹野高史

2009年・日本映画・117分

配給／松竹株式会社

<元旦には、やっぱり『釣りバカ』が1番！>

2009年から2010年への年末年始はメチャ寒かったが、好天気連続。元旦は昼からの初詣を済ませ約2時間ほど歩き回った後、さあ今日は何を観ようかと思うと足は自然に『釣りバカ』に。てなわけで、朝原雄三監督が7連投に及んだ『釣りバカ日誌 ファイナル』を鑑賞することに。

今回は北海道を舞台にした釣りのシーンが多いらしいが、ここには滝田洋二郎監督の『釣りキチ三平』（09年）に対する朝原監督の対抗意識がありありと？北海道には幻の魚「イトウ」がいるらしいが、さてハマちゃんは北海道でこれを見事に釣り上げることができるのだろうか？また、株価の低迷が続けネコン不況が続く昨今、スーさんこと鈴木一之助会長（三國連太郎）率いる鈴木建設株式会社は何か生き残り、めでたくファイナルを迎えることができるのだろうか？

まあ、そう心配しなくても『釣りバカ』のハッピーエンドはハナからの約束事だから、頭をカラッポにして楽しめばいいだけ。やっぱり、元旦は『釣りバカ』が1番！

<シリアスなテーマ その1>

明るく楽しく、そしてハッピーエンドに。そんなストーリーづくりの枠は決まっても、やはり時代状況に対応したシリアスなテーマが含まれていなければ作品があまりにも軽薄になってしまう。そこで、のっけから登場してくるシリアスなテーマは、鈴木会長による役員報酬全額返還宣言。取締役会で役員全員に向かって断固としてそんな宣言をした鈴木会長の真意はどこに？そして、これを受けた 堀田社長（鶴田忍）、秋山専務（加藤武）、原口取締役（小野武彦）らの対応はいかに？

低迷するわがニッポン国では、こんな風景はどここの企業でも今や日常茶飯事？それを克服するためには早く「成長戦略」を確定することが不可欠だが、さて菅直人国家戦略室長兼副総理の構想は？

<シリアスなテーマ その2>

鈴木会長の役員報酬全額返還宣言は、建設業界全体を覆っている不況という波の中、少しでも自分にできることは？と願うオーナー会長の真剣な思いから出たもの。しかし、実はその背景には遺産相続をめぐる紀子（高畑淳子）と恵（かとうかずこ）という何かとうるさい（？）2人の娘たちへの対抗心も？「パパのために」を合言葉にした紀子と恵による「遺言おねだり作戦」の姿をみていると、スーさんもかなり憂鬱？

その結果、本作のマドンナ役として登場する料亭の美人女将沢村葉子（松坂慶子）とその娘沢村裕美（吹石一恵）の出生の秘密をめぐるシリアスなテーマも、後半登場することに。こりゃひょっとして、ファイナルでは鈴木家のお家騒動も登場？

<不況の今こそ、不真面目な社員を！>

私が監査役をしている一部上場企業であるコンピューターの株式会社オービックは2009年12月7日付で日経新聞一面に広告を載せ、その中で野田順弘会長兼代表取締役は「求む、ふまじめ人間。」と述べているが、本作を観るとその真意がよくわかる。舟木課長（益岡徹）以下営業三課の社員たちは営業ノルマの達成に向けて頑張っているが、今ドキ新規受注をとるのは至難のワザ。このまま今年も業績が下がれば、社員の給料もボーナスもカット？そんな厳しいビジネスの環境下、本作では万年ヒラ社員のハマちゃんこと浜崎伝助（西田敏行）が今をときめく成長企業であるイマムラ・トレーディングスの原常務（岸部一徳）との人脈を活かして、みごと大型受注に成功！その最大の要因は一体ナニ？それを見極めることができればあなたの社員力も一段とアップするのでは？不況の今こそ、ハマちゃんのようなふまじめな社員を目指さなくっちゃ・・・。

<「備えあれば憂いなし」の教訓も>

私はいつもMKタクシーを愛用しているが、それは安くて便利でサービスがいいから。誰だって、基本料金660円のタクシーと500円のタクシーが2台並んでいれば、500円のタクシーに乗るのは当たり前。ところが、2009年12月16日、国土交通省近畿運輸局は京阪神地区の主要都市で営業する日勤勤務のタクシーについて、道路運送法に基づき、1日の1台あたりの250Km以上の走行を禁止する新基準を公示した。これはMKタクシーを含むワンコインタクシーを規制するためであることは明らかだ。つまり、これは利用者の便宜よりタクシー業界内の競争を少なくし、すべてのタクシー会社を横並びにするための方策で、私に言わせれば全くナンセンス！

本作では、鈴木会長のお抱え運転手である前原運転手（笹野高史）の「備えあれば憂いなし」という小なりとはいえ自信に満ちた生き方が光っている。「経費節減」の掛け声の前に、1番そのクビが怪しいのがお抱え運転手。バブルの時代はオーケーでも、不況の時代になれば会長だってタクシーを利用して経費節減するのが当然となるからだ。しかし、前原運転手はえらい。つまり、近い将来そうなると見込んだ彼はいち早く個人タクシーの免許をとり、いつ鈴木建設をリストラされても生きていける方策を確立していたわけだ。そして、個人タクシーをやるなら他と差別化する意味でワンコインタクシーがベスト？

鈴木会長への恩義を感じて鈴木会長の注文を優先的に受け付けているのは律儀だが、それだけでは個人タクシーとして生きていけないはず。先見の明のある前原運転手のことだから彼はきっとワンコインタクシーの道を選択したはずだが、そのためにはやはり国土交通省とも戦わなければ・・・。

<霊界ミュージカル出演の功罪は？>

2009年12月28日に「砂防会館」を引き払った中曽根康弘元総理は1918年生まれ91歳だが、まだまだ元気で今後の政治活動への意欲も満々。それに比べると、三國連太郎は中曽根さんほどの元気はなさそう。もともと、スーさんは2人の娘から遺言をねだられていることもあって自分の死を明確に意識しているようだが、ハマちゃんとの楽しい北海道旅行の後突然そのスーさんが倒れたから大変。この年で倒れるとなかなかこの世への「ご帰還」は難しいところだが、さて本作が描く霊界ミュージカルの中で「三途の川」を渡ろうとするスーさんの運命は？

『釣りバカ』では、ハマちゃんのポツテリとした腹や超ボインの胸を見せた裸の演技が見モノだが、さて『ファイナル』の霊界ミュージカルでみせるその得意技は？時にはそのバカバカしさが鼻につくこともあるが、元旦の今日はそれもオーケー。しかし、こんな霊界ミュージカルへの出演は、ひょっとして三國連太郎さんの寿命に影響するかも？そう考えると、彼の霊界ミュージカル出演の功罪は？

<鈴木会長演説はケネディ大統領、オバマ大統領演説以上のインパクト？>

2009年の重大ニュースの1つは、プラハにおけるオバマ大統領の演説。この非核宣言演説には全世界が驚くとともに、核廃絶に向けた希望を新たにしたりはすだ。それに匹敵する演説が、1961年のジョン・F・ケネディ大統領による「祖国があなたのために何ができるかを問うより、あなたが祖国のために何ができるかを問うてほしい」という就任演説。昨年10月26日の鳩山由紀夫首相の就任演説で私はそれと同じような演説をしてもらいたいと願っていたが、結果は逆で、あっちにもこっちにもいい顔をする演説になってしまったのは残念。

さあ、『釣りバカ日誌 ファイナル』らしく、本作のラストは鈴木建設を完全引退する鈴木会長が大ホールで役員と社員たちに演説するシーン。その演説を聞いてビックリしたのは、第1に自分の株をすべて会社に返すと宣言したこと。そして第2は、この会社は自分のものでないことはもちろん、経営陣のものでも株主のものでもなく、社員のものだと宣言したこと。この両者とも聞き流せばそれっきりだが、弁護士として考えればそんな簡単な問題ではないからここは少し真剣に勉強してもらいたい。

それはともかく、本作ではオバマ演説にもケネディ演説にも匹敵する（？）鈴木会長演説に注目！それは、長島茂雄が引退した時の「巨人軍は永久に不滅です」をなぞった「鈴木建設は永久に不滅」というものだ。2010年の正月以降も引き続き日本が厳しい状況にあることを考えればこの言葉の現実性には疑問があるが、「鈴木建設は社員のものだ」という宣言と相まって、この演説が社員を奮い立たせたことはまちがいない。そういう意味では、この鈴木演説のインパクトは大だが、さて今後の社員たちの頑張りは？

2010（平成22）年1月5日記